

白井聖仁会病院 新任常勤医師のご紹介

身近で安心できる 呼吸器診療を目指して

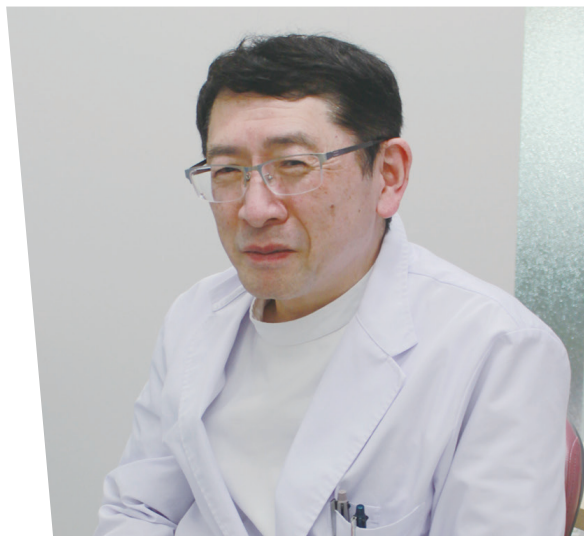
大学院卒後は呼吸器疾患および呼吸器悪性腫瘍を中心に診療してきました。呼吸器疾患は感染症、アレルギー・免疫疾患、間質性疾患、腫瘍性疾患など多岐にわたりますが、これまでさまざまな病院で幅広く経験を積んできました。特に腫瘍性疾患の診断・治療に多く携わってきました。

肺は外界の影響を受ける重要な臓器であり、継続的な管理が必要です。当院では呼吸器診療を開始したばかりですが、今後充実させていきたいと考えています。呼吸器症状でお困りの際はお気軽にご相談ください。必要に応じて他の施設へのご紹介も行います。

早期発見とより良い治療 につなげるために

肺癌は日本のがん死亡原因の第1位であり、生涯罹患率は男性の約10%、女性の約5%とされています。近年、分子標的薬や免疫療法は向上していますが、進行例では依然として治療が難しいのが現状です。そのため、根治を目指すには早期診断が極めて重要です。

早期の段階で発見し適切に治療することで、高い治療成績が期待できます。当院では薄層高分解能CTを活用し、早期発見からより良い治療につなげる診療を目指します。また、今後は気管支鏡の導入を検討し、感染症・間質性疾患・腫瘍性疾患などに対する診断精度の向上にも取り組んでいきます。



内科・呼吸器内科・腫瘍内科
竹田 雄一郎

大学付属病院で初期研修後、国立がん研究センター病院で後期研修として肺がんの画像診断・気管支鏡・薬物療法を学ぶ。大学院修了・博士号取得後、国立国際医療センター病院に勤務し、米国留学を経て呼吸器悪性腫瘍を中心に呼吸器内科診療に従事。総合病院での呼吸器診療の経験を経て、2026年4月より常勤医師として着任。

地域で完結する 小児アレルギーの診療へ

私はこれまで千葉県こども病院で、アレルギー疾患・膠原病を中心に診療してきました。アレルギー疾患には食物アレルギーや気管支喘息、アトピー性皮膚炎などの身近な病気が多く、中でも食物アレルギーは近年ナッツ類が急激に増加しています。食物アレルギーは、かつては血液検査の結果のみで除去していた時期もありましたが、現在では正確な診断と必要最低限の除去が治療の原則です。当院では血液検査に加え、短時間で結果がわかる皮膚テスト（プリックテスト）も実施しており、幅広い原因物質の検査が可能です。また、血液検査で数値が上昇していても実際に食べられることも多く、必要に応じて日帰りでの食物経口負荷試験を実施します。アレルギー体質のお子さんは成長に伴い複数のアレルギー疾患を

発症・合併すること（アレルギーマーチ）が知られており、幼少期からの適切な治療が大切です。遠方の専門病院へ通わずとも、地域で診療が完結できる体制づくりを目指しています。

**親として、医師として
寄り添う診療を**

私は一度社会人を経験した後、医師を志して医学部を再受験しました。その原点には「自分自身の力で直接誰かの役に立ちたい」という強い思いがありました。また、自身の子育ての経験が、小児科の担当医の道に進む大きなきっかけとなりました。診察室では、二人の医師としてお子さんに真摯に向き合うとともに、二人の親として皆様と同じ目線で考えたいと思っています。病気のことはもちろん、育児の中で感じるちよつとした疑問や不安もぜひお気軽にご相談ください。



小児科 古月 瑞新

九州大学医学部卒業。福岡の市中病院で初期研修後、千葉県こども病院と船橋市立医療センターで小児科の研修。千葉県こども病院のアレルギー・膠原病科勤務を経て、2026年4月より常勤医師として着任。

脚の表面に血管が
浮いてきたら
下肢静脈エコー検査を
受けてください

全身の血管には動脈と静脈があり、静脈は血液を心臓へ戻す役割を担っています。特に脚の静脈は重力の影響を受けやすいため、ふくらはぎの筋肉と静脈弁がポンプのように働き、血液の逆流を防いでいます。

しかし、立ち仕事やデスクワークなどで筋ポンプ作用が低下すると、静脈弁が壊れて血液が逆流し、下肢静脈瘤を発症します。進行すると、脚のむくみや皮膚炎、皮膚潰瘍を引き起こすこともあります。

そのため、症状が進行する前に、脚の静脈逆流を調べる「下肢静脈エコー検査」をおすすめします。エコー検査は痛みがなく、身体への負担も少ないため、その場で簡便に診断が可能です。

下肢静脈瘤の治療は
皮膚を切開する
外科的手術ではなく
血管内治療を行います

下肢静脈瘤を予防するため

には、長時間の立位・座位を避けること、よく歩いてふくらはぎの筋ポンプを働かせること、弾性ストッキングで脚を適度に圧迫することが重要です。しかし二度

壊れた静脈弁は自然に修復されないため、治療を行わなければ血液の逆流は持続します。

以前は、逆流している静脈を皮膚切開によって抜去する手術が一般的で、全身麻酔や脊椎麻酔のもと数日の入院が必要でした。また、術後の内出血も目立ちやすい治療でした。

現在では、より低侵襲な血管内治療が主流となっています。当院では、1泊入院による血管内レーザー焼灼術を行っており、術後すぐに歩行可能です。皮膚

切開を伴わないため回復が早く、早期から入浴も可能です。

また、比較的軽症の患者さんには、外来で行える下肢静脈瘤硬化療法をおすすめしています。これは、拡張した静脈瘤に硬化剤を注入し、静脈を閉塞させる治療法です。いずれの治療でも、術後約1週間は弾性包帯または弾性ストッキングを着用していただきます。

当院では、下肢静脈瘤の予防から軽症例・重症例の治療、その後のフォローアップまで一貫して行い、総合的なケアを提供しています。



副院長・形成外科 八巻 隆

東京女子医科大学病院にて研修医・医員として勤務後、日本赤十字社医療センター、東京都立多摩総合医療センター、東京都立広尾病院にて形成外科診療に従事。東京女子医科大学病院では講師・准教授を歴任し、東京女子医科大学附属足立医療センター教授を経て、2026年4月より常勤医師として着任。

皆様とともに明日を考える

患者様一人ひとりのかけがえのない
人生の支えとなるように
人にやさしい
医療・看護・介護を実践します



日本医療機能評価機構認定病院
医療法人社団聖仁会

白井聖仁会病院

診療科目

- 内科 ● 外科 ● 消化器外科 ● 整形外科 ● 形成外科 ● 小児科 ● 婦人科 ● 皮膚科 ● 腎臓内科 ● 呼吸器内科
 - 循環器内科 ● 糖尿病内科 ● 眼科 ● 消化器内科 ● 乳腺外科 ● 緩和ケア内科 ● 耳鼻咽喉科 ● 泌尿器科
 - 口腔外科 ● リハビリテーション科 ● 放射線科 ● 麻酔科
- 人工透析センター、胆石症外来、健診センター、訪問診療もごさいます。



☎047-491-3111 白井市笹塚3-25-2